

公開連続セミナー「21世紀の京都大学吉田寮を考える」第6回開催要項

主催:「21世紀の京都大学吉田寮を考える」実行委員会

連絡先 TEL 090-8236-1043

Email 21.yoshidaryo@gmail.com

1. 名称 「21世紀の京都大学吉田寮を考える」(第6回)

2. 日時 2018年3月17日(日)

開場 13時40分・開会 14時～閉会 16時半(予定)

3. 場所 京都大学文学部新館第2講義室

左京区吉田本町(東山通、近衛通東入)

4. 趣旨

数年間にわたり、京都大学当局と吉田寮自治会との間で、吉田寮現棟の老朽化や災害対策について交渉が進まず、事態は膠着した状況にありました。そのような状況の中、2017年12月19日に、京都大学当局より、「吉田寮生の安全確保についての基本方針」なる文書が発表されました。そこでは、「平成30年9月末日までに、現在吉田寮に入舎しているすべての学生は退舎しなければならない」ということが記され、また、今後の具体的な建物の扱いについては何も明かされていませんでした。こうした措置に対して、私たち吉田寮生・元寮生・市民有志は、歴史ある吉田寮の建物や生活のすべてが一方向的に消し去られるのではないかと非常に憂慮しております。以上のような状況の中で、昨年、寮生・市民有志により、「市民と考える吉田寮再生100年プロジェクト」なる企画が立ち上がりました。同企画では、吉田寮現棟の改修方法について広く市民の方々からアイデアが募集され、また、昨年9月には、シンポジウムが開催され、多くの専門家・市民・吉田寮生が一堂に会し、吉田寮現棟の今後の可能性について意見交換が行われました。

この度は、以上の活動の重要性を鑑み、「市民と考える吉田寮再生100年プロジェクト」で集まった提案のうち、再生デザイン部門及び継承プログラム部門から成る各2部門で最も注目を集めた提案について、提案者本人に話を伺い、深く掘り下げたいと思います。また、同プロジェクトにコメンテーターとして関わった方からコメントをいただき、「吉田寮にはどんな価値があるのか」、「どのように残してゆくべきか」といったことについて、様々な意見や立場を持つ方々と共に色んな角度から考えてみたいと思います。

5. 次第

・開会の挨拶 吉田寮生

- ・コーディネーターからの説明
- ・100年プロジェクトの経過に関する説明
- ・吉田寮の保存活用アイデアのプレゼン
 - 細入 夏加氏（鎌倉設計工房勤務、京大工学部建築学科卒）
「吉田寮がこれからの100年も生き続けるための挑戦」
 - 中尾 芳治氏（元 京都府埋蔵文化財調査研究センター理事、吉田寮元寮生）
「建築文化財「吉田寮」の保存と学生寮への再生！」
- ・コメンテーターによるコメント（各プレゼンについて）
 - 山根 芳洋氏（七灯社建築研究所主宰）
- ・意見交換
- ・閉会

6. コーディネーター 河野 康治氏・現役吉田寮生

出演者 紹介

・中尾 芳治(なかお・よしはる)氏

1936年、大阪市生まれ。1959年、京都大学文学部史学科(考古学専攻)卒。

1960年～1990年、大阪市難波宮跡の調査・研究と保存・整備に従事。1990年、帝塚山学院大学教授。1991年～「上智大学アンコール遺跡国際調査団」の一員としてアンコール遺跡の調査・保存事業に参加。現在(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター理事。主な著作に『難波宮の研究』、『アンコール遺跡の考古学』(編著)などがある。

・細入 夏加(ほそいり・なつか)氏

2003年 京都大学工学部建築学科卒業

2005年 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了

研究テーマ: 伝統木造建築の耐震性能について

2005～2010年 株式会社 TIS & PARTNERS 勤務(構造設計を行う。)

2010年～ 株式会社鎌倉設計工房勤務(木造住宅の設計を主に行う。)

学生時代は、吉田寮の隣の学生集会所(当時は現在の新しい建物とは違い、吉田寮と同じ時期に建てられた古い木造建築でした)にて、京大合唱団で歌っていました。

4回生の時の設計課題で吉田寮実測をしました。その縁で、吉田寮の補特Cのメンバーになり、ペーパークラフトを作成したりしていました。(先日、久しぶりに吉田寮を訪れた際に、そのペーパークラフトが吉田寮入口に飾られていることに驚きました。)

一級建築士 古民家鑑定士1級

・山根 芳洋(やまね・よしひろ)氏

1963 年生。建築家。1986 年大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業。同年建築学科長賞受賞。在学中、(株)アルキービ総合計画事務所一級建築士事務所に勤務。(株)匠楽舎一級建築士事務所へ設立メンバーとして参加し、(株)聖拙社一級建築士事務所への参加を経て、七灯社建築研究所設立。七灯社建築研究所主宰に至る。

建築保存活動として「大阪・兎玉ビル」・「京都・日置邸」・「京都大学吉田寮構内建築物」・「第三高等学校・艇庫」などに携わる。

2012 年に論文「京都大学学生寄宿舍吉田寮食堂建築が文部省営繕設計による現存最古の建築である実証」・「京都大学吉田寮の中に息づく京都大学前身創設時寄宿舍」・「京都大学吉田寮便所建築について」を発表。

主な作品に「天平堂」・「京都ホテルオオクラ衣装室」・「東京かつ好」・韓国釜山「茶室頂崖軒」など。

主な受賞に 1995 年グッドデザイン金賞「東京かつ好」など。

・河野 康治(かわの・こうじ) 氏

1973 年生。専門は都市計画。京都市文化財マネージャー。1999 年、英国国立サセックス大学卒。2010 年、京都大学大学院 人間・環境学研究科 相関環境学専攻修了(人間・環境学修士)。2013 年、京都大学大学院研究科相関環境学専攻、単位取得退学。2016 年より大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員。

2012 年「学生集会所調査報告書」提出(京都文マネ有志の会)。